

## 国際会議から スマートインフラと建設に関する国際会議

本会議は、ケンブリッジ大学工学部に創設されているCambridge Centre for Smart Infrastructure and Construction (CSIC) によって開催された国際会議です。社会インフラの計画、アセットマネジメント、センシング技術分野の研究者と施工技術者が集い、双方の技術や課題を提供し、議論することを目的として開催されました。

3日間の会議中全ての日の冒頭に基調講演があり、センシングやビックデータを用いたインフラの維持管理の高度化や現在進行中のプロジェクトに関する講演がありました。セッション会場は、都市と経済、アセットマネジメン

正式名称：International Conference on Smart Infrastructure and Construction (ICSIC)  
 開催国：英国(ケンブリッジ)  
 期間：2016/6/27-29  
 主催：Cambridge Centre for Smart Infrastructure and Construction  
 次回開催予定：特になし  
 ホームページURL：<http://www.icsic.eng.cam.ac.uk/>



発表の様子

流王智子  
 信号・情報技術研究部  
 ネットワーク・通信研究室  
 副主任研究員

ト、センサーの3つに分けられ、世界各国から、大学関係者、鉄道事業者を中心に127件の発表がありました。筆者は、センサーデータ分析技術を用いた異常検知手法についての発表をし、設定条件に関する質疑やセンサーとデータ収集装置の将来展望に関する議論を行いました。鉄道総研からは、筆者のほかに基礎・土構造研究室の阿部副主任研究員、鋼・複合構造研究室の吉田副主任研究員が参加し、固有振動数を用いた橋脚の健全度診断技術、振動発電を用いた橋りょうの状態監視についての発表を行いました。

会議の開催前にWhovaというスマートフォン向けのアプリのインストールを推奨されました。このアプリを用いると、会議の参加者や開催日程をスマートフォンで確認することができ、非常に重宝しました。



阿部副主任研究員の発表の様子



吉田副主任研究員の発表の様子



会場近くのケム川の様子

国際会議から

第15回鉄道工学設計・運営国際会議(COMPRAIL 2016)

COMPRAIL 2016は、2016年7月19日～21日にかけてスペイン マドリードにて開催されました。今回の発表件数は基調講演を除いて約70件であり、正確な参加国数や参加者数の発表がなかったものの、ヨーロッパ圏だけでなくアジア圏からも出席者がおり、総勢200名程度でした。鉄道総研からは7名が参加し、最近の研究成果について報告しました。

筆者は、トロリー線下部の断面形状の計測としゅう動面画像の活用によってトロリー線の摩耗状態を調査し、それらを活用してトロリー線の残存直径を算出する手法について発表しました。発表後には詳細な測定条件や測定機器について質問があり、トロリー線の保守に活用できる本手法に対して高い関心を持っていただけたと感じました。この質疑応答やアトーチ駅にて催されたConference



入倉佳祐  
電力技術研究部  
電車線構造研究室  
研究員

Dinnerの際の意見交換は和やかな雰囲気であり、親交を深めることができました。第1回COMPRAILは、1987年にドイツ フランクフルトにて開催され、今回で第15回目となります。歴史ある国際会議ですが、さらに有意義で活発な会議とすべく、会議終了後、今後議論すべきトピックスに関するアンケートが実施されました。次回も鉄道業界のトレンドが反映された議論が期待されます。



発表風景



アトーチ駅

正式名称：15th International Conference on Railway Engineering Design and Operation  
 開催国：スペイン(マドリード)  
 期間：2016/7/19-21  
 主催：Wessex Institute of Technology  
 開催頻度：2年に1回  
 次回開催予定：2018年 開催場所は未定  
 ホームページURL：<http://www.wessex.ac.uk/conferences/2016>